

# 進捗状況報告シート (2011年度・吉堂)

担当部局は  ☆印の箇所を記入してください

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	人間福祉研究科
<b>大項目 4 教育研究組織（研究科）</b>	
<b>中項目</b>	
小項目	4. 0. 1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。
要素	教育研究組織の編制原理 理念・目的との適合性 学術の進展や社会の要請との適合性 (KG1) 研究活動の状況
小項目	4. 0. 2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
要素	

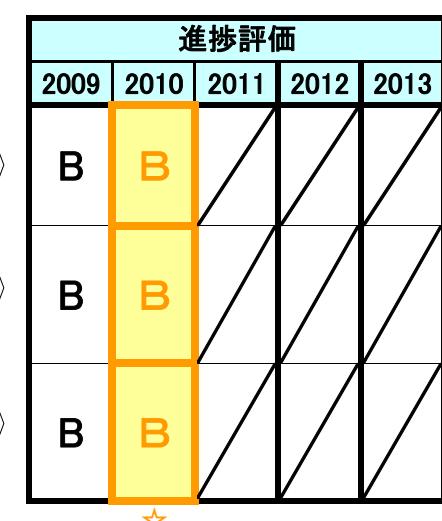
## II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標·指標》

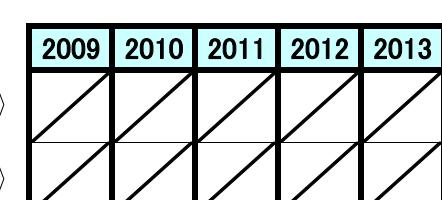
本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。  
B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。  
C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。  
D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」
1．学部教員の総数に占める研究科担当教員を増やす。	→学部教員の総数にしめる研究科担当教員の比率。
2．学外の実践家や政策担当者などゲスト・スピーカーを増やす。設置理由 実践と研究と教育を連携させる教育研究組織にするためには機動力のある運営が必要である。	→学外の実践家や政策担当者などゲスト・スピーカーの数。
3．研究科の研究組織としての使命・目的と実際の研究組織の適合性を定期的に検証する。	→大学院諸問題検討委員会の開催とカリキュラム、研究教育組織の点検回数と件数。



2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」
	→
	→



※ 全小項目について記述が必要

1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものか。

### 《評価指標データ》

博士研究員（P.D.）の受入状況  
 日本学術振興会特別研究員（D.C.、P.D.）の受入人数  
 研究誌発行状況  
 提携大学との研究誌等の交流状況（送付・受入）  
 専任教員の発表論文数【基本的な指標データ】  
 学術賞の受賞状況【大学基礎データ】  
 学会誌・国際学会議事録等に掲載された学術研究論文件数  
 21世紀COEプログラムの採択状況  
 文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業の採択状況  
 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業採択状況【基本的な基礎データ】  
 特定プロジェクト研究センター制度の活用状況  
 国際学会でのゲストスピーカーの延べ回数

★ 追加データがあれば追加してください。

### ◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目4.0.1	社会起業に関する若干の新設科目的設置を決定し、非常勤講師を増員したなど、理念と目的に照らして充実する取り組みがなされた。さらに2011年度にむけて研究科担当教員を数名増員した。
★ 小項目4.0.2	
その他	

### 【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目4.0.1	
★ 小項目4.0.2	大学院諸問題検討委員会においてカリキュラムおよび研究教育組織の点検を行ったが、専攻増設も視野に入れた検討については継続中である。
その他	

### ◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目4.0.1	
★ 小項目4.0.2	
その他	

### 《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目4.0.1	
★ 小項目4.0.2	
その他	

### ◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★ その他 (自由記述)	
-----------------	--

### III. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○教員の充実や学外者の協力者など、必要とされる教育研究組織の充実が図られています。

【学内委員】

○現状の説明小項目 4. 0. 1 で、「... 充実に取り組んだ。」、しかし基本的に大きな変更はなく、適切だったとの記述は少しあかりにくいと思います。

○目標 1 で、「学部教員の総数に占める研究科担当教員を増加する。」とし、新設科目の設置に伴う非常勤講師や研究科理念の充実にふさわしい研究科担当教員の増員をした点は評価されます。今後とも、理念はもちろん、学部との関係、入学定員・在籍数、科目・学位等との関係も視野にいれ、研究科担当教員の必要数の継続的な検証が期待されます。

○本項目は、大学（院）の理念・目的に照らして教育研究組織として相応しいか、研究科の理念・目的を実現するために相応しいか、を少し大きな視点で聞いているのだと思います。

【大学基準協会:評価に際し留意すべき事項】

○小項目 4. 0. 1  
基盤評価：なし

達成度評価：「教育研究組織が、当該大学、学部・研究科等の理念・目的を実現するためにふさわしいものである」

○小項目 4. 0. 2  
基盤評価：なし

達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、教育研究組織の適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている。」

### IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

○小項目 4. 0. 1 (説明)

★ 教育研究組織が理念・目的に照らして適切なものであるかを問う件に関しては担当者を増強するなど充実したとの表記にもみられるように研究科設置の理念・目的を大きく変更することなく充実を図ったものと理解されたい。教育研究組織の基盤整備についても学則および規程により定められており、さらに研究科においては大学院諸問題検討委員会などを設置し継続的・恒常的に理念・目的と教育研究組織との矛盾がないか検討がなされていると認識していただきたい。